テラス 女子初優勝

ハンドボール 県総合選手権

ハンドボールの第53回県総合選手権最終日は23日、ANAアリーナ浦添で各部門の決勝を行い、男子は興南BICが具志川HCを25―20、女子はザ・テラスホテルズがレキオクラブを22―12で破って優勝した。マスターズは興南OBが糸満OBを11―4、マスターズ50sは沖縄教員がコザクラブOBを14―11で制し、それぞれ頂点に立った。

【男子】

▽準決勝

興南BIC 27―23 那覇西ク

具志川HC 27―25 あい保険工房HB

▽決勝

興南BIC 25（11―12、14―8）20 具志川HC

【女子】

▽準決勝

ザ・テラスホテルズ 19―11 那覇西ク

レキオク 26―24 那覇西高

▽決勝

ザ・テラスホテルズ 22（11―6、11―6）12 レキオク

【マスターズ】

▽決勝

興南OB 11（4―2、7―2）4 糸満OB

【マスターズ50s】

▽決勝

沖縄教員 14（7―6、7―5）11 コザクOB

女子決勝　ザ・テラスホテルズ―レキオクラブ　前半、ザ・テラスホテルズの塩田真奈美が8点目のシュートを決める＝ANAアリーナ浦添（金城健太撮影）

パス連携 5連続得点

日本リーグ参入を目指すザ・テラスホテルズが、レキオクラブに22―12で快勝した。本年度最後の大会を初優勝で終えて笑顔だった。

速攻で勢いに乗った。パスカットやロングパスから塩田真奈美がシュートを決めると、開始9分で5―1とリード。だがスピードを上げてきた相手に「ゴール前でごりごりと攻められた」（GK田口舞）と、1点差まで迫られた。

ここで得点源の坂本朱里が奮起した。「何とかしないといけない」と、一瞬空いたスペースと相手選手を利用したブラインドシュートでゴール。7メートルスローやロングパスからの速攻も決めるなど、チームが5連続得点して相手の流れを押し返した。

後半は攻撃の質を意識。攻めの流れが決まっているフォーメーションではなく、選手個々の判断でシュートやパス交換してゴールする場面もあった。坂本は「理想にはまだまだ遠いけど、少しだけ近づけたかな」と、速攻頼みからの脱却に手応えを感じていた。

リーグで戦うため、高いレベルを求められている。田口は「7月の日本選手権で優勝し、チームの力を示したい」と意欲を燃やした。（又吉健次）

女子優勝のザ・テラスホテルズ

興南BIC 男子制す

男子優勝の興南BIC

興南BICは後半に攻撃が爆発した。1点ビハインドを5連続得点で逆転し、25―20で具志川HCを破った。

足動かし逆転つなぐ

前半は足が動かなかった。準決勝で昨年準優勝の那覇西クラブを破った安心感や疲れが原因で受け身に回ってしまい、ロングシュートを決められた。

主将の宮城護は「決勝進出は昨年4月以来。みんなで楽しもうと、ハーフタイムで気持ちを切り替えた」と語る。ボールに寄って守ることで足が動きだし、堅守は速攻にもつながった。

2点差に詰め寄られた場面では比嘉成希がゴール前で守る相手を見てロングシュートを放つなど、2連続得点でチームを落ち着かせた。「外したら落ち込む場面なので安心した。速さのあるプレーで今後もチームに貢献したい」と誓った。

男子決勝　興南BIC―具志川HC　後半、右サイドからシュートを放つ興南BICの宮城護